Flexmind
RESIBON
日本レヂボン株式会社

砥石のリーディングカンパニー

２０１１年３月期　決算説明資料

大証２部　コード：5389

http://www.resibon.co.jp/

目　次

1 目次
2 会社概要
3 グループ構成
4 歴史
5 砥石市場
6 市場シェア
7 ビジネスモデル
8 特徴
9 連結貸借対照表
10 連結損益計算書
11 ２０１１年３月期の業績（連結）
12 セグメント別　売上・営業利益と構成比
13 ２０１１年３月期の業績（日本レヂボン）
14 ２０１１年３月期の業績（菱和）
15 ２０１１年３月期の業績（ダイヤレヂボン）
16 ２０１２年３月期の業績予想（連結）
17 ２０１２年３月期の業績予想（日本レヂボン）
18 ２０１２年３月期の業績予想（菱和）
19 ２０１２年３月期の業績予想（ダイヤレヂボン）
20 ２０１２年３月期の業績予想（連結）グラフ
21 生産体制の強化
22 中期経営計画の状況
23~30 参考資料
31 免責事項

会社概要

- 社　　名　　日本レヂボン株式会社
- 代　表　者　　今立 康一
- 設　　立　　１９５８年２月４日
- 事業内容　　砥石の製造及び販売、機械工具及びその他関連機器等の販売
- 従業員数　　２７９名（連結８９４名）
- 上場市場　　大阪証券取引所 第２部
- 資　本　金　　１１億２，８２０万円
- 本　　社　　大阪府大阪市西区

グループ構成

国内砥石製造・販売事業

日本レヂボン株式会社

事　　業：砥石・ガラスクロスの製造・販売
工　　場：古川工場、寺林工場（岐阜県飛騨市）

６０％
出資

海外子会社
（タイ）

国内子会社

１００％
出資

海外砥石製造・販売事業

ダイヤレヂボン（タイランド）
DIA RESIBON（THAILAND）CO.,LTD.

事　　業：砥石の製造・販売
工　　場：ナワナコン工場（パトゥムタニー県）
　　ロジャナ工場（アユタヤ県）

製品商品販売事業

株式会社　菱和

事　　業：砥石および関連商品の卸売販売
営業所：全国19拠点
（札幌・仙台・北関東・東京・千葉・城南・静岡・日立・栃木・藤沢・鹿島
名古屋・富山・大阪・姫路・高松・広島・北九州・福岡）

歴　史

1958 人造研磨･研磨砥石の製造のため、
大阪西成区に日本レヂボン製砥株式会社を設立

1962 「スキルタッチ」専門工場として
神岡工場を新設

1964 「オフセット砥石」量産工場として
古川工場を新設

1966 ガラスクロス含浸処理工場として
寺林工場を設置

1985 社名を「日本レヂボン製砥株式会社」より
「日本レヂボン株式会社」に変更

1987 ダイヤレヂボンを三菱商事株式会社、THAI-MIC CO.,LTD THAI CHEMICAL CORP.と共同でタイ王国に設置

1988 大阪証券取引所市場第二部特別指定銘柄に上場

1992 ダイヤレヂボンの出資比率を６０%に変更

1997 神岡工場の砥石製造部門を古川工場に統合

1998 日本レヂボン古川工場において
ＩＳＯ９００１の認証を取得
（現在は生産本部に拡大認証）

2000 ダイヤレヂボンにおいてＩＳＯ９００２の
認証を取得　（現在はＩＳＯ９００１に移行）

2007 ダイヤレヂボン第二工場（ロジャナ工場）
稼動　（土地24,000㎡ 工場5,000㎡）

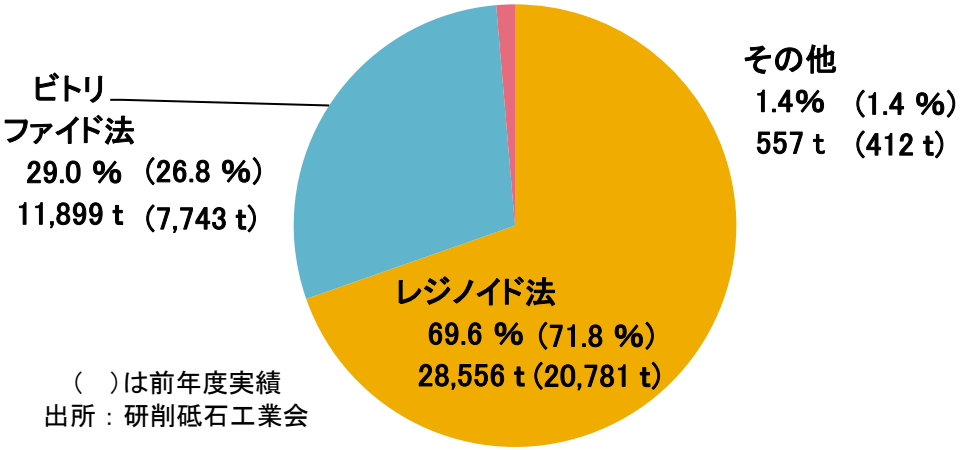
2008 創立５０周年・上場２０周年

2009 株式会社菱和と日研工業株式会社を統合

2010 ダイヤレヂボン第二工場（ロジャナ工場）を
増設・拡大（2,000㎡）
ダイヤレヂボンにおいて
ｏＳａ（欧州研磨材製品安全協会）の認証取得

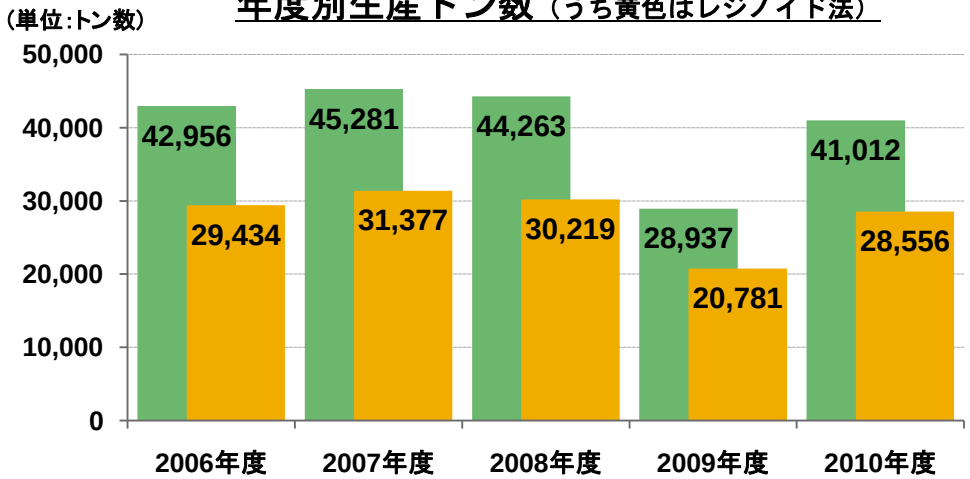
砥石市場

平成22年度　研削砥石製法別生産量比率・トン数



（　）は前年度実績
出所：研削砥石工業会

年度別生産トン数（うち黄色はレジノイド法）



砥石市場

・市場規模：４５４億円（出荷額）　　・会社数：４７社（研削砥石工業会加盟会社）

研削砥石の製法

・ビトリファイド法 ― 粘土類を結合剤として１３００度の高温で焼成した砥石。
（特徴：耐水性・耐薬品性・加工精度に優れる）

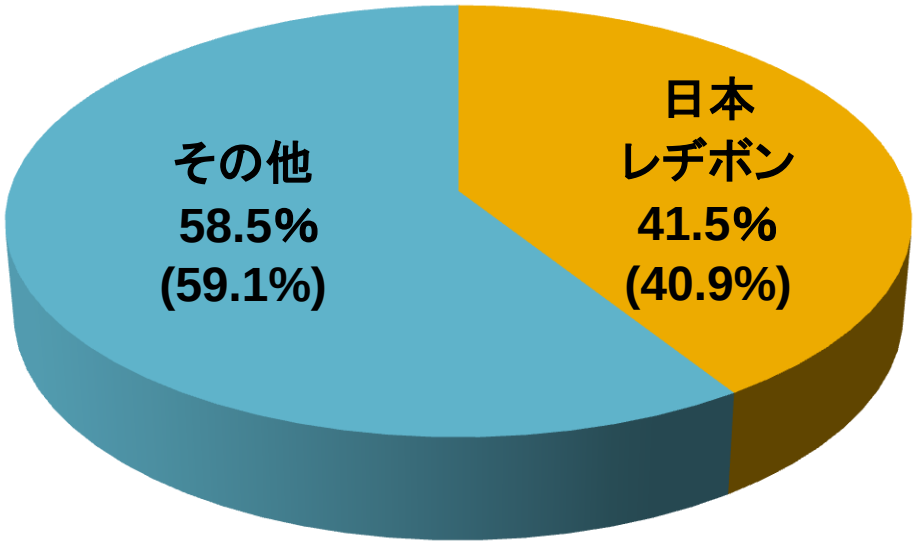
・レジノイド法 ― 合成樹脂を結合剤として２００度以下で焼成した砥石。
（特徴：弾性・靭性に優れ、安全性が高く、高速回転で使用）

当社が製造 → オフセット砥石、切断砥石

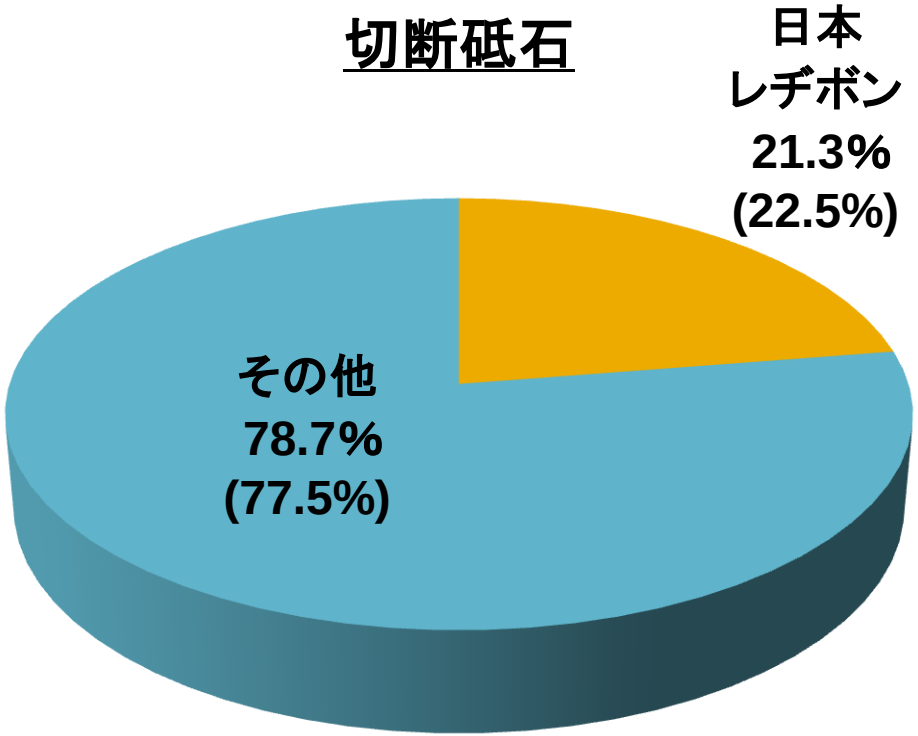
市場シェア

推定　：　国内市場シェア（レジノイド法）

オフセット砥石



切断砥石



（　）内は前年度実績

ビジネスモデル

原料

- アルミナ
- フェノール樹脂
- ガラスクロス

製造

日本

日本レヂボン　岐阜県飛騨市

３５（３１）百万枚

タイ

ダイヤレヂボン

ナワナコン工場

３７（２４）百万枚

ロジャナ工場

３３（２０）百万枚

生産数量合計　１０５（７５）百万枚

卸売り

インドネシア 韓　国	１６（１２）百万枚
日　本 （菱　和） （代理店１６社）	２７（２４）百万枚
アジア　中近東 北　米　中南米 欧　州　ほか	５４（３３）百万枚
タ　イ	７（６）百万枚

販売数量合計　１０５（７５）百万枚

顧客

- 鉄鋼
- 化学
- 車両
- 造船
- 飛行機
- 建設
- 電機
- 個人

（　）内は前期実績

特　徴

強　み

●オフセット砥石のパイオニアとしての技術力と圧倒的シェア
（国内市場シェア４０％以上）

●海外生産子会社との生産連携による二極化販売体制の構築
（汎用品、付加価値品）

●ＯＥＭ供給力

●工業用消耗品

●ＩＳＯ９００１を認証取得
（日本レヂボン・ダイヤレヂボン）

●ｏＳａ（欧州研磨材製品安全協会）を認証取得
（ダイヤレヂボン）

参入障壁

●国内販売ネットワークの充実
大量で円滑な製品供給体制とスキルタッチ友の会を通してレヂボン製品利用者（ユーザー）の囲い込み

●ＯＥＭによる海外販売ネットワークの充実
（世界６０数カ国に輸出）

●強力なブランド

成長要因

●大手研磨材、ツールメーカーへのＯＥＭ供給

●生産供給能力の充実

●海外新規取引先開拓による市場シェア拡大に向け
三菱商事子会社との連携強化

連結貸借対照表

（単位：百万円）

期別 科目	当期 2011年3月31日	前期 2010年3月31日	増減
【資産の部】			
流動資産	**6,512**	**6,312**	**↑ 200**
固定資産	**7,185**	**6,925**	**↑ 259**
有形固定資産	6,403	6,270	↑ 133
無形固定資産	340	172	↑ 167
投資その他の資産	441	482	↓ 41
資産合計	13,698	13,237	↑ 460
【負債の部】			
流動負債	**3,962**	**3,880**	**↑ 82**
固定負債	**1,531**	**1,599**	**↓ 68**
負債合計	**5,493**	**5,480**	**↑ 13**
【純資産の部】			
株主資本	**7,660**	**7,229**	**↑ 431**
資本金	1,128	1,128	―
資本剰余金	908	908	―
利益剰余金	5,634	5,203	↑ 431
自己株式	▲ 10	▲ 10	―
その他の包括利益累計額	**▲ 144**	**▲ 112**	**↓ 31**
少数株主持分	**687**	**640**	**↑ 47**
純資産合計	**8,204**	**7,757**	**↑ 446**
負債および純資産合計	**13,698**	**13,237**	**↑ 460**

※単位未満切り捨て表示しております

- **流動資産→増加**
  売上の拡大に伴い、受取手形及び売掛金、たな卸資産が増加

- **固定資産→増加**
  ①有形固定資産
  機械設備の取得により増加
  ②無形固定資産
  生産・販売管理システムのソフトウエア購入により、増加

- **純資産→増加**
  利益剰余金の増加により、株主資本が増加

連結損益計算書

（単位：百万円）

期別 科目	2009年3月期	2010年3月期	当期 2011年3月期	増減
売上高	**14,237**	**11,275**	**13,523**	**↑ 2,247**
（成長率）	（↓ 8.7%）	（↓ 20.8%）	（↑ 19.9%）	―
（国内砥石製造･販売事業）	―	2,838	3,605	↑ 767
（製品商品販売事業）	―	6,299	6,801	↑ 501
（海外砥石製造･販売事業）	―	2,137	3,116	↑ 978
売上総利益	**3,587**	**2,789**	**3,478**	**↑ 689**
（粗利益率）	（25.2%）	（24.7%）	（25.7%）	（↑ 1.0%）
販売管理費	2,784	2,440	2,526	↑ 85
営業利益	**802**	**348**	**952**	**↑ 603**
（営業利益率）	（ 5.6%）	（ 3.1%）	（ 7.0%）	（↑ 3.9%）
営業外収益	114	79	34	↓ 45
営業外費用	102	62	58	↓ 3
経常利益	**813**	**365**	**927**	**↑ 562**
特別利益	1	9	8	↓ 1
特別損失	28	44	28	↓ 16
税金等調整前当期純利益	786	330	908	↑ 578
少数株主利益	87	74	120	↑ 45
当期純利益	**386**	**▲ 35**	**510**	**↑ 545**

※単位未満切り捨て表示しております

２０１１年３月期の業績（連　結）

	2011.3	2010. 3	増 減		
売　上　高	13,523	11,275	↑ 2,247	↑	19.9%
営　業　利　益	952	348	↑ 603	↑	173.4%
経　常　利　益	927	365	↑ 562	↑	153.8%
当　期　純　利　益	510	▲ 35	↑ 545		ー%

（単位：百万円）

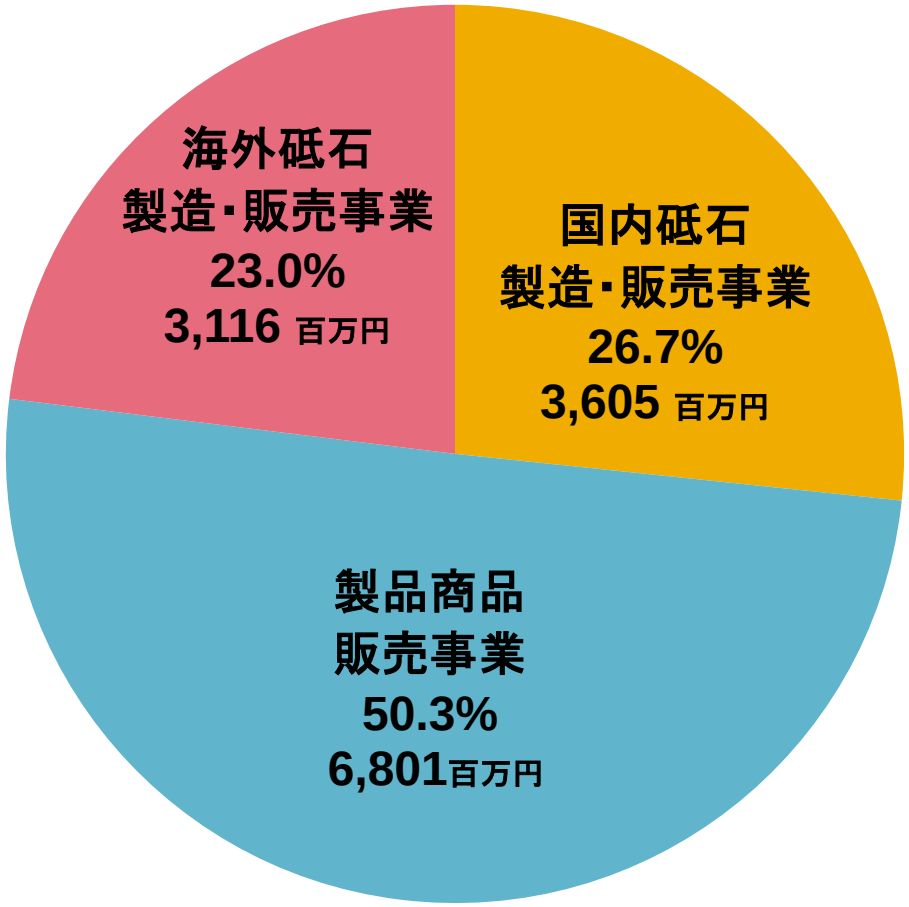
〈ポイント〉

・売　上　→　増　収
①海外：砥石需要の拡大（４９．７％増加　４，５５３百万円）
②国内：砥石・機械工具・消耗品などの需要回復（８．９％増加　８，９７０百万円）

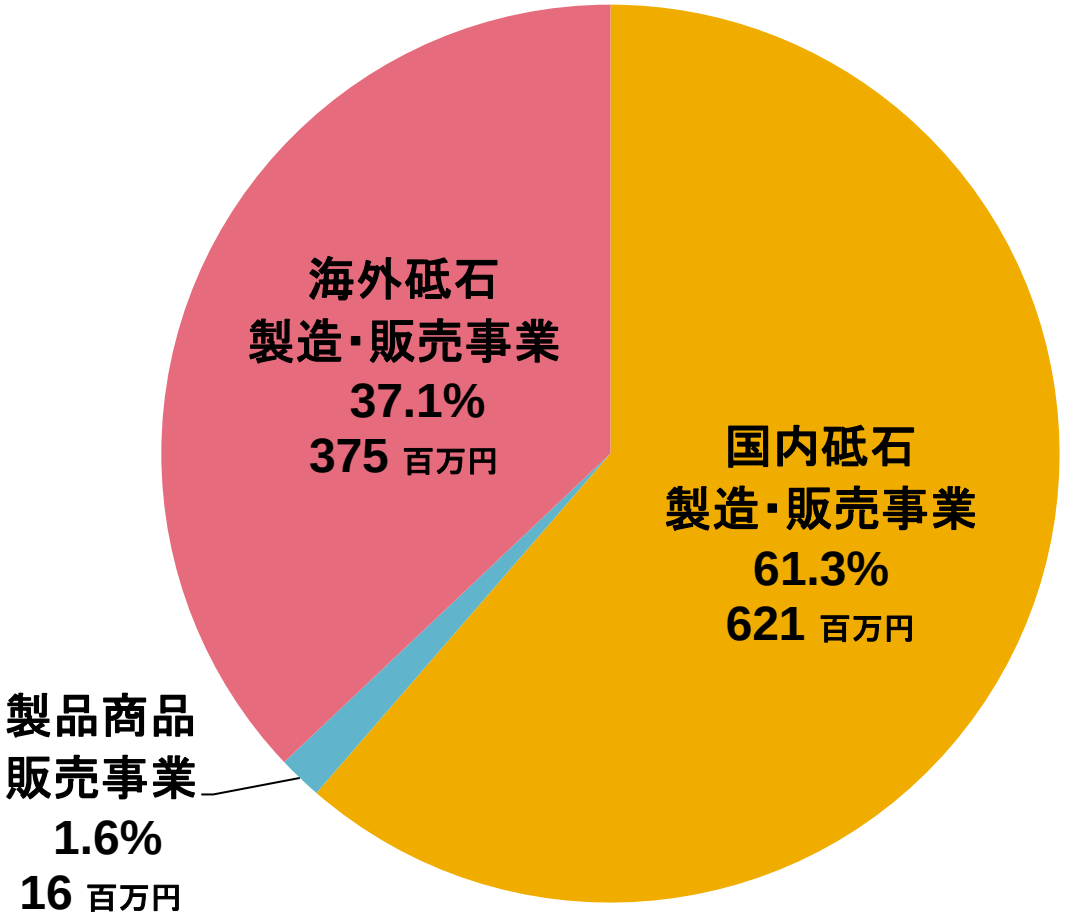
・利　益　→　増　益
①増収に伴い増益
②為替（バーツ高）が減益要因→１７０百万円
③生産量が４１．９％増加したことによる生産性の向上
（生産量：日本レヂボン１５．６％ ダイヤレヂボン６０．４％増→連結で１億枚突破）

セグメント別　売上･営業利益と構成比

売上の構成比



営業利益の構成比



２０１１年３月期の業績（日本レヂボン）

	2011.3	2010. 3		増 減		
売　上　高	7,550	6,574	↑	975	↑	14.8%
営　業　利　益	523	254	↑	269	↑	105.9%
経　常　利　益	645	414	↑	230	↑	55.5%
当　期　純　利　益	416	256	↑	159	↑	62.2%

（単位：百万円）

・売　上　→　各部門で増収
　①砥石（国内）：砥石需要が回復傾向にあり、４．８％増加
　②砥石（輸出）：インドネシア向け輸出が好調に推移し、４１．７％増加
　③ガラスクロス：加工費収入が増加し、２９．３％増加

・利　益　→　増　益
　①砥石の販売を中心に、増収に伴い増益
　②生産性の向上に伴い、売上原価率が低下し利益率が改善

２０１１年３月期の業績（菱　和）

	2011.3	2010. 3		増 減		
売　上　高	6,811	6,302	↑	509	↑	8.1%
売上総利益	1,105	991	↑	114	↑	11. 5%
営業利益	6	▲ 187	↑	193		―%
経常利益	20	▲ 184	↑	204		―%
当期純利益	10	▲ 292	↑	302		―%

（単位：百万円）

・売　上　→　増　収
　砥石を中心に設備関連の機械工具や消耗品の需要が拡大

・利　益　→　増　益
　①増収に伴い増益、売上総利益が１１．５％増加
　②営業所の統合・グループ内での経営資源の見直しにより、
　　人件費を中心に販売管理費を抑制

２０１１年３月期の業績（ダイヤレヂボン）

	2010.12	2009. 12	増 減		
売　上　高	3,484	2,388	↑ 1,096	↑	45.9%
営　業　利　益	370	237	↑ 133	↑	56.1%
経　常　利　益	367	239	↑ 128	↑	53.6%
当　期　純　利　益	301	193	↑ 108	↑	56.0%

（単位：百万円）

・売　上　→　増　収
　好調な受注、とくにアジア・ヨーロッパ向け輸出の顕著な伸びにより、
　販売数量が５６．５％増加

・利　益　→　増　益
　①増収に伴い増益
　②生産性の向上に伴って売上原価率が低下し、粗利益率が向上
　③ドル建て輸出のバーツ高の減益要因（１７０百万円）を吸収

２０１２年３月期の業績予想（連　結）

	2012.3	2011．3		増 減		
売　上　高	14,200	13,523	↑	677	↑	5.0%
営　業　利　益	650	952	↓	302	↓	31.7%
経　常　利　益	630	927	↓	297	↓	32.1%
当　期　純　利　益	360	510	↓	150	↓	29.4%

（単位：百万円）

・売　上

①ダイヤレヂボン:海外砥石需要の拡大は継続

②日本レヂボン:国内砥石需要は、東日本大震災により上期は低調と予想

→日本レヂボン：１．３％減収　菱和：９．３％増収　ダイヤレヂボン：７．４％増収

・利　益

①設備投資に伴う償却負担→１００百万円

②生産・販売管理システム再構築の費用→７０百万円

③ダイヤレヂボンのドル建て輸出のバーツ高に伴う取引採算の悪化→２００百万円

④原材料費の高騰→５０百万円

２０１２年３月期の業績予想（日本レヂボン）

	2012.3	2011．3	増 減		
売　上　高	7,450	7,550	↓	100	↓ 1.3%
営　業　利　益	320	523	↓	203	↓ 38.8%
経　常　利　益	470	645	↓	175	↓ 27.1%
当　期　純　利　益	310	416	↓	106	↓ 25.6%

（単位：百万円）

・売　上

①砥石（国内）：東日本大震災の影響で上期は低調も、通期では当期並み
②砥石（海外）：インドネシア向けの輸出は前期の反動で２．３％減収
③ガラスクロス製品・ダイヤレヂボンからの仕入商品：６．２％増収
④その他仕入商品：３．５％減収

・利　益

①品質改善向上などのための設備投資による償却負担→５０百万円
②生産・販売管理システム再構築の費用→７０百万円
③原材料費の高騰→５０百万円

２０１２年３月期の業績予想（菱　和）

	2012.3	2011. 3	増 減		
売　上　高	7,446	6,811	↑	635	↑ 9.3%
営業利益	58	6	↑	52	↑ 966.7%
経常利益	63	20	↑	43	↑ 315.0%
当期純利益	57	10	↑	47	↑ 570.0%

（単位：百万円）

・売　上
　①国内砥石需要の回復
　②機械工具・消耗品の需要が増加

・利　益
　増収に伴い増益

２０１２年３月期の業績予想（ダイヤレヂボン）

	2011.12	2010. 12		増 減		
売　上　高	3,743	3,484	↑	259	↑	7.4%
営　業　利　益	218	370	↓	152	↓	41.1%
経　常　利　益	218	367	↓	149	↓	40.6%
当　期　純　利　益	185	301	↓	116	↓	38.5%

（単位：百万円）

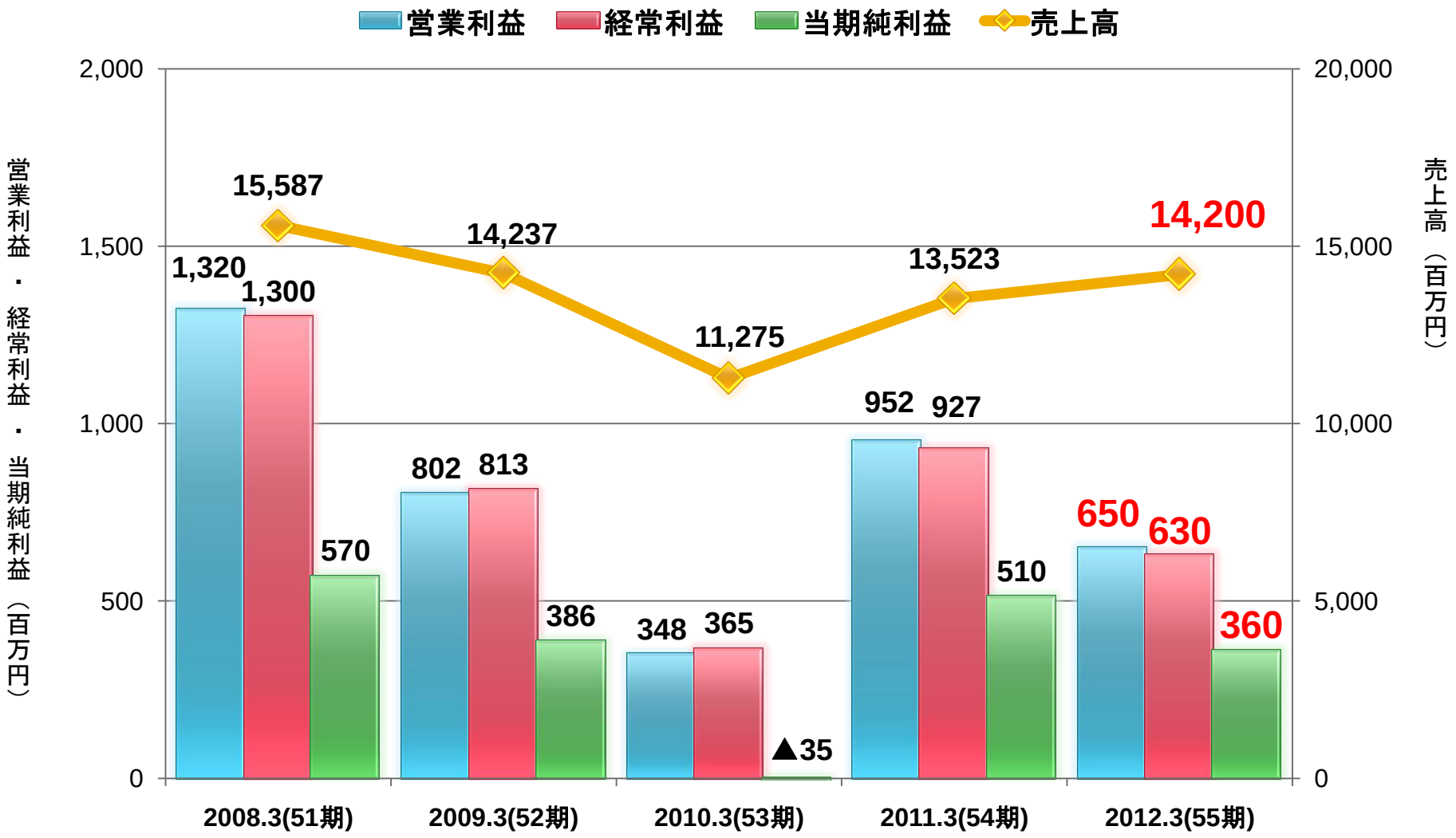
・売　上

①世界的な砥石需要の拡大により、販売数量が１５．５％増加
②切断砥石の需要が拡大
③ドル建て輸出のバーツ高により、２４０百万円内外減収

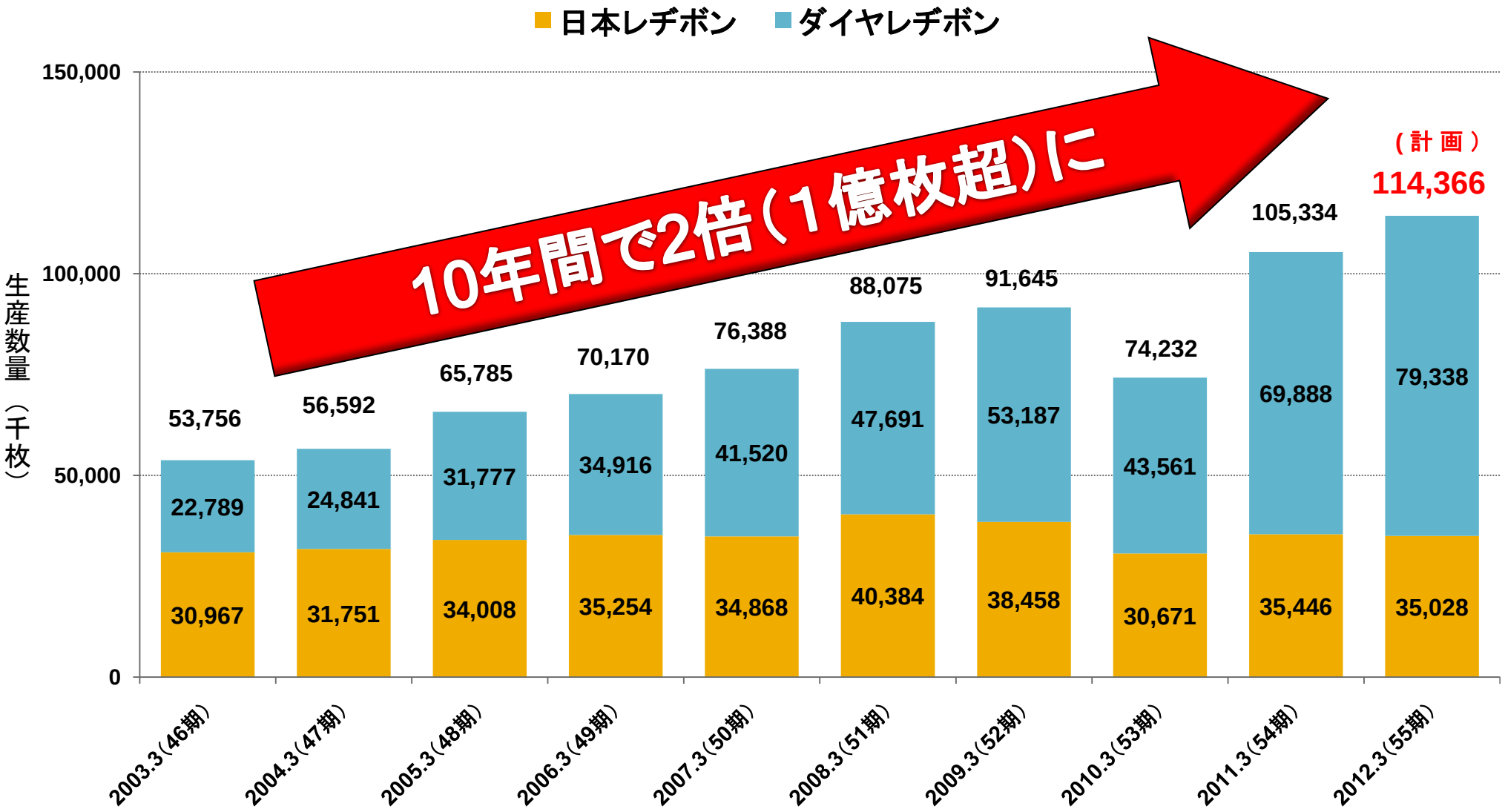
・利　益

①上記③のバーツ高による売上減収（２４０百万円）
輸入材料のバーツ高に伴い売上原価が減少（４０百万円）　→２００百万円
②生産拡大のための設備投資に伴う償却負担→５０百万円

２０１２年３月期の業績予想（連　結）



生産体制の強化


日本レヂボン
ダイヤレヂボン
10年間で2倍（1億枚超）に
生産数量（千枚）
150,000
100,000
50,000
0
53,756
22,789
30,967
56,592
24,841
31,751
65,785
31,777
34,008
70,170
34,916
35,254
76,388
41,520
34,868
88,075
47,691
40,384
91,645
53,187
38,458
74,232
43,561
30,671
105,334
69,888
35,446
（計画）
114,366
79,338
35,028
2003.3（46期）
2004.3（47期）
2005.3（48期）
2006.3（49期）
2007.3（50期）
2008.3（51期）
2009.3（52期）
2010.3（53期）
2011.3（54期）
2012.3（55期）

中期経営計画の状況

（単位：百万円）

		2009年3月期		2010年3月期		2011年3月期		達成率（%）
		計画	実績	計画	実績	計画	実績	
売上高		15,800	14,237	17,000	11,275	18,000	13,523	76.8
売上総利益		4,162	3,587	4,466	2,789	4,717	3,479	73.8
営業利益		1,290	802	1,453	348	1,554	952	48.9
経常利益		1,280	813	1,398	365	1,500	927	50.4
当期純利益		650	386	650	▲ 35	700	510	43.1
販売数量（千枚）	日本レヂボン	38,459	37,037	38,300	30,620	38,000	35,841	90.2
	ダイヤレヂボン	49,219	52,712	55,000	43,880	62,000	68,682	99.4
	合　計	87,678	89,749	93,300	74,500	100,000	104,523	95.7
為　替（ﾄﾞﾙ⇔ﾊﾞｰﾂ⇔円）		1ﾄﾞﾙ＝34.0ﾊﾞｰﾂ 1ﾊﾞｰﾂ＝3.30円	1ﾄﾞﾙ＝33.1ﾊﾞｰﾂ 1ﾊﾞｰﾂ＝3.15円	1ﾄﾞﾙ＝34.0ﾊﾞｰﾂ 1ﾊﾞｰﾂ＝3.30円	1ﾄﾞﾙ＝33.8ﾊﾞｰﾂ 1ﾊﾞｰﾂ＝2.73円	1ﾄﾞﾙ＝34.0ﾊﾞｰﾂ 1ﾊﾞｰﾂ＝3.30円	1ﾄﾞﾙ＝31.4ﾊﾞｰﾂ 1ﾊﾞｰﾂ＝2.77円	－

①リーマン・ショックによる砥石需要低下
②ダイヤレヂボンでの為替バーツ高の影響（売上：約１４億円、利益：約１１億円）

※次期の中期経営計画の数値につきましては、現時点では東日本大震災による産業界への影響が不透明であるため、今後の動向を見定めたうえで策定いたします。

【参考】中期経営課題

１．業績の向上

◆国内◆　シェアアップ
◆海外◆　新規市場拡大

＜国内市場シェア＞

・オフセット砥石　44%→41.9%→40.9%→41.5%
（20/3）（21/3）（22/3）（23/3）

・切　断　砥　石　19%→19.8%→22.5%→21.3%
（20/3）（21/3）（22/3）（23/3）

＜海外市場＞

①三菱商事との営業連携強化によるブラジル、ロシア、トルコ
インドなど新規先開拓（ＯＥＭ供給）
②最適地生産と消費地生産の選択を通してグローバル対応

２．生産体制の強化・充実

◆国内◆①生産管理システムを有効活用して徹底した合理化，
品種統合，生産工程の再構築などによる原価低減
②基礎技術力のアップによる品質向上と新製品開発
◆海外◆①グローバル市場に対応した生産拠点の再構築
②高機能戦略製品（国内工場）と汎用製品（ダイヤ
レヂボン）の二極化生産販売体制の更なる推進

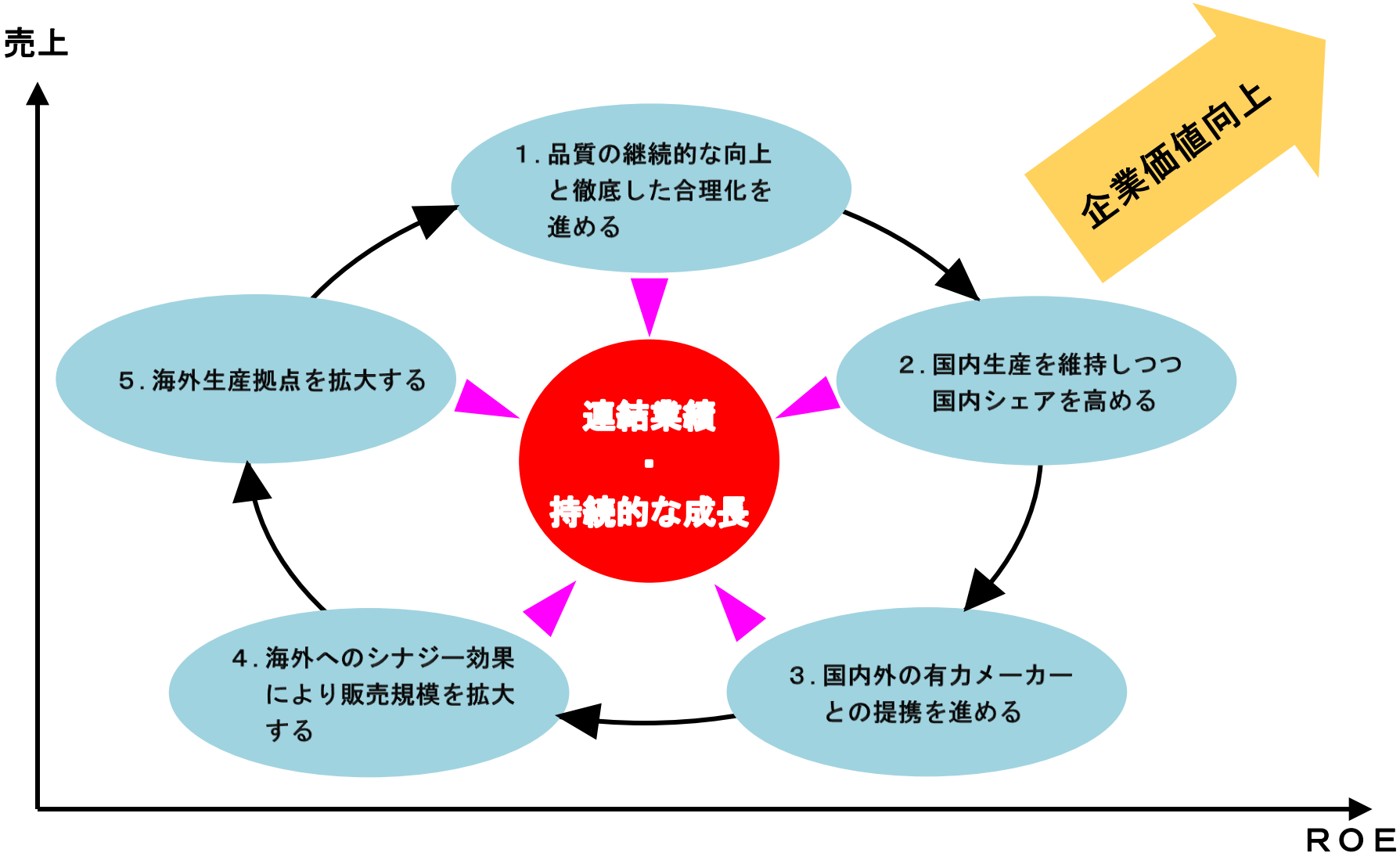
３．財務体質の強化

①営業キャッシュフローの向上による
自己資本の充実・有利子負債の削減
②遊休資産のキャッシュ化と仕入債務の
現金支払比率の向上による総資産の圧縮

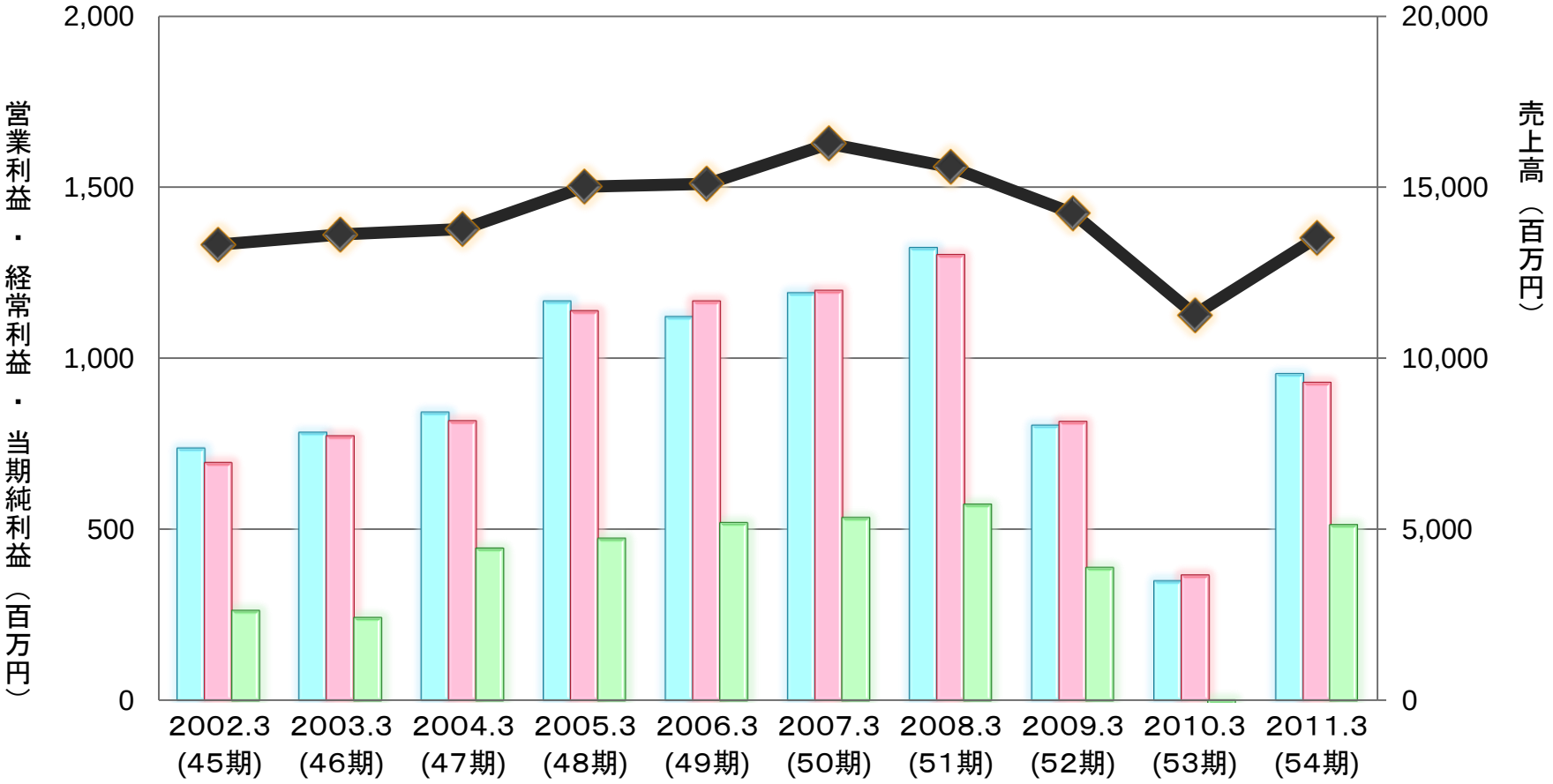
４．組織・社員の活性化

①人事評価の、より適正化を目指した体制構築
（教育研修、目標設定など）
②変化のスピードに対応できる人材育成
③労働分配率の向上（成果配分）と
それらによる人的改革（やる気、活性化）

【参考】砥石への集中投資で企業価値向上

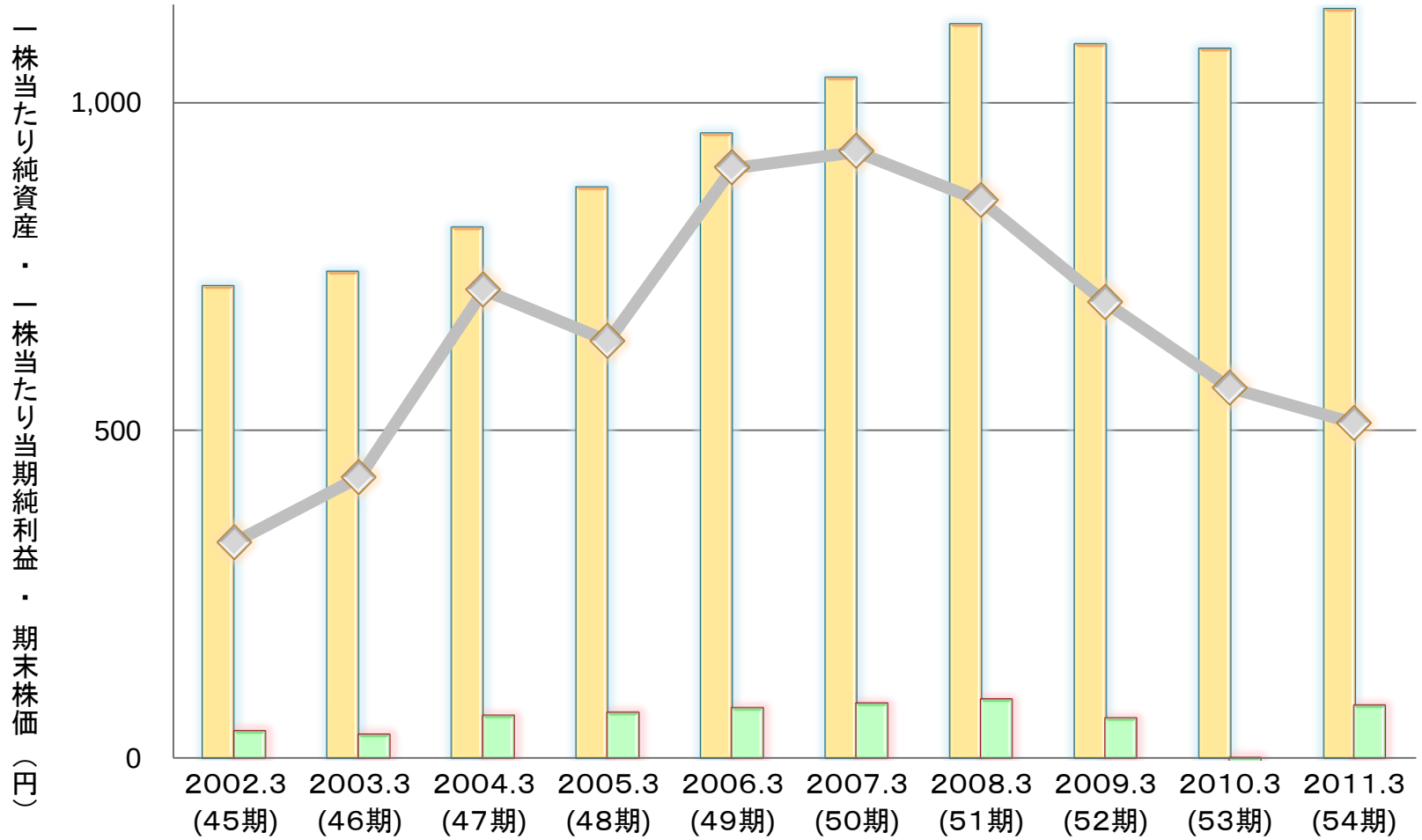


【参考】連結売上・利益の推移



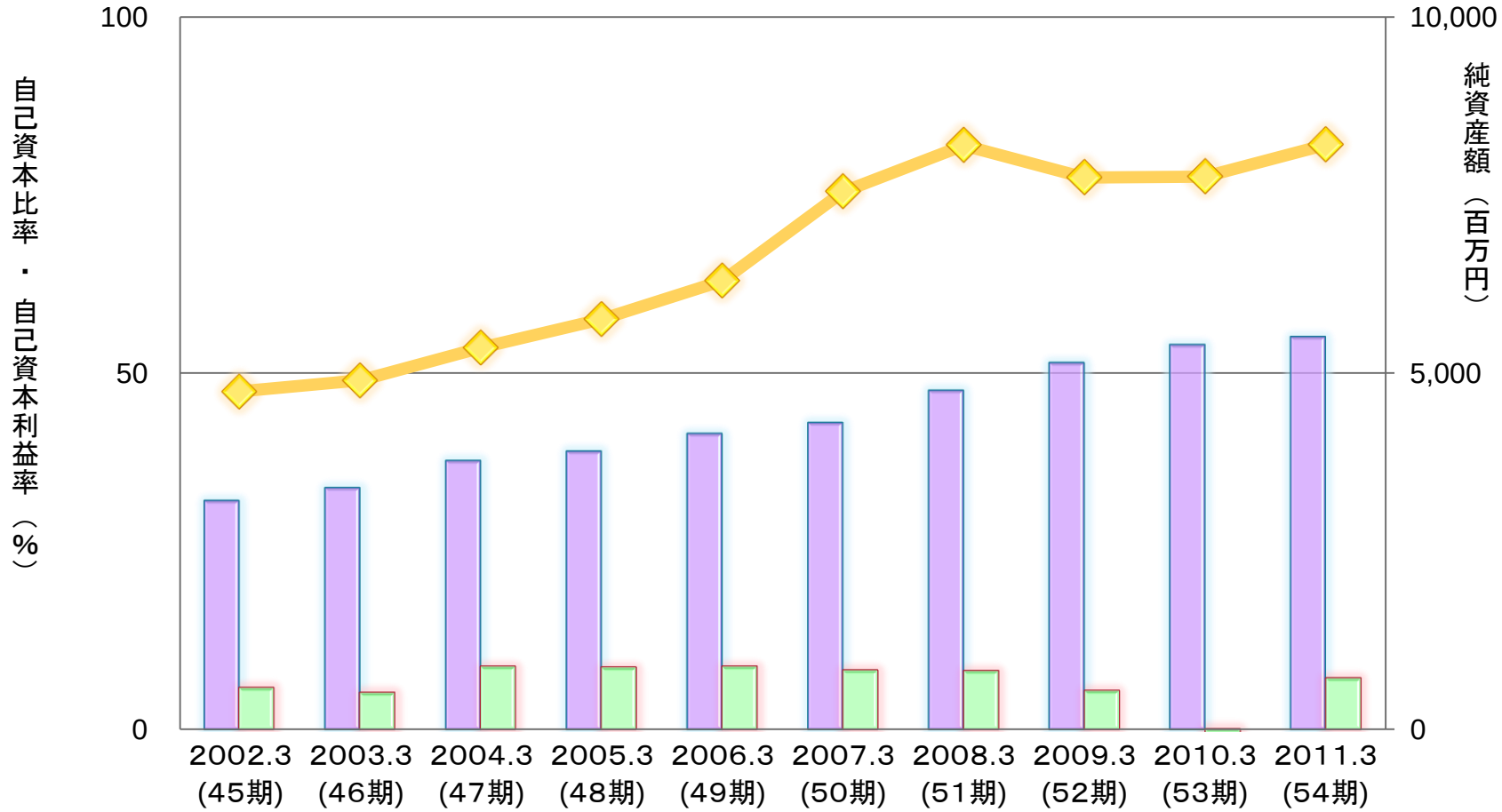
	2002.3 (45期)	2003.3 (46期)	2004.3 (47期)	2005.3 (48期)	2006.3 (49期)	2007.3 (50期)	2008.3 (51期)	2009.3 (52期)	2010.3 (53期)	2011.3 (54期)
営業利益（百万円）	735	781	840	1,164	1,119	1,188	1,320	802	348	952
経常利益（百万円）	693	771	815	1,136	1,165	1,195	1,300	813	365	927
当期純利益（百万円）	261	240	442	471	516	531	570	386	▲ 35	510
売上高（百万円）	13,326	13,616	13,777	15,012	15,095	16,266	15,587	14,237	11,275	13,523

【参考】1株当たり純資産･純利益の推移



	2002.3 (45期)	2003.3 (46期)	2004.3 (47期)	2005.3 (48期)	2006.3 (49期)	2007.3 (50期)	2008.3 (51期)	2009.3 (52期)	2010.3 (53期)	2011.3 (54期)
1株当たり純資産（円）	719.23	741.00	808.76	869.80	951.93	1,037.28	1,118.41	1,087.79	1,080.97	1,141.67
1株当たり当期純利益（円）	39.65	34.40	62.52	66.95	73.86	80.66	86.63	58.71	▲ 5.34	77.49
期末株価（円）	330	429	714	636	900	925	850	695	565	511

【参考】自己資本比率・自己資本利益率の推移



	2002.3 (45期)	2003.3 (46期)	2004.3 (47期)	2005.3 (48期)	2006.3 (49期)	2007.3 (50期)	2008.3 (51期)	2009.3 (52期)	2010.3 (53期)	2011.3 (54期)
自己資本比率(%)	32.0	33.8	37.6	38.9	41.4	42.9	47.4	51.3	53.8	54.9
自己資本利益率(ROE)(%)	5.7	5.0	8.6	8.5	8.6	8.1	8.0	5.3	▲ 0.5	7.0
純資産額(百万円)	4,745	4,901	5,360	5,760	6,299	7,549	8,197	7,745	7,757	8,204

【参考】主要製品：砥　石

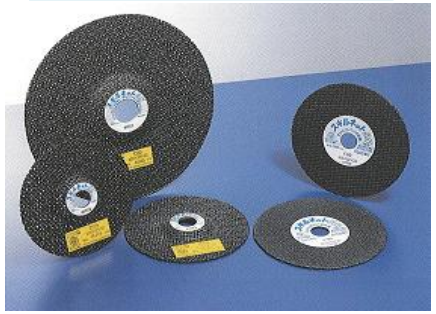
オフセット砥石

フレキシブル砥石

切断砥石

スーパーシリーズ

研磨ディスク



ガラスクロスディスク

NEW!

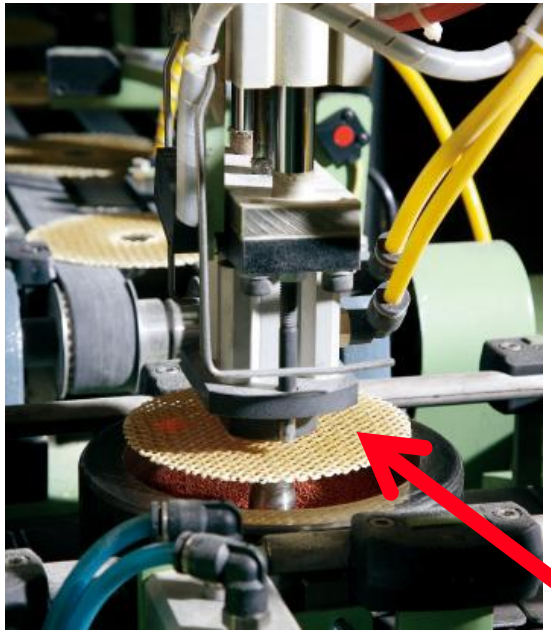
スーパーバイオタッチ
（ソフトタイプ）

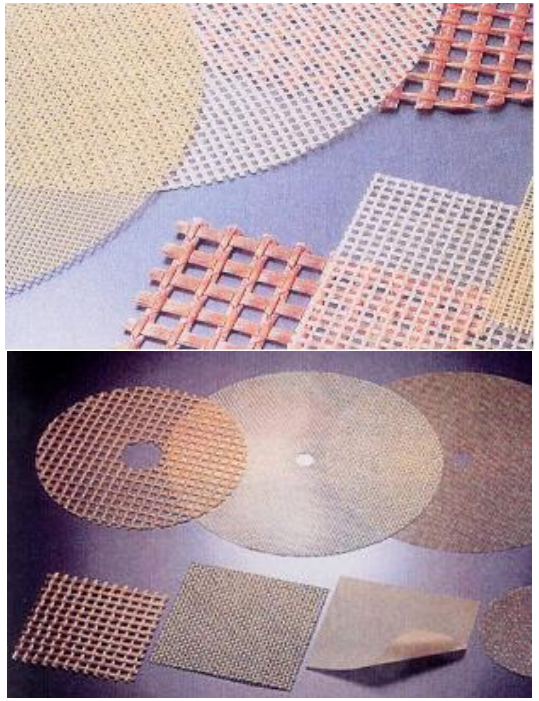
スーパーバイオタッチ
（ハードタイプ）

ステンレスなどの研削において優れた力を発揮。
もらい錆（さび）しにくいアイアンフリー設計。

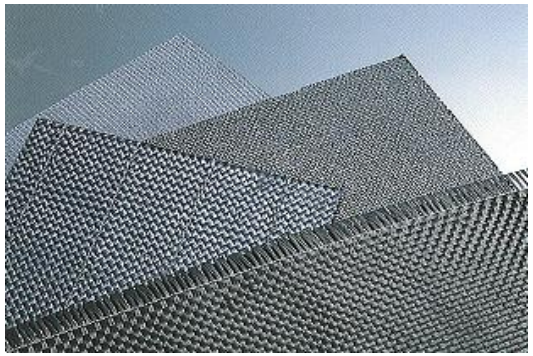
幅広いニーズに応えるフレキシブル砥石、
鉄やステンレスを削る・磨くオフセット砥石、
長いものを定寸にカットする切断砥石、
快適な操作性を約束する研磨ディスクなどを揃えています。

【参考】主要製品：ガラスクロス製品





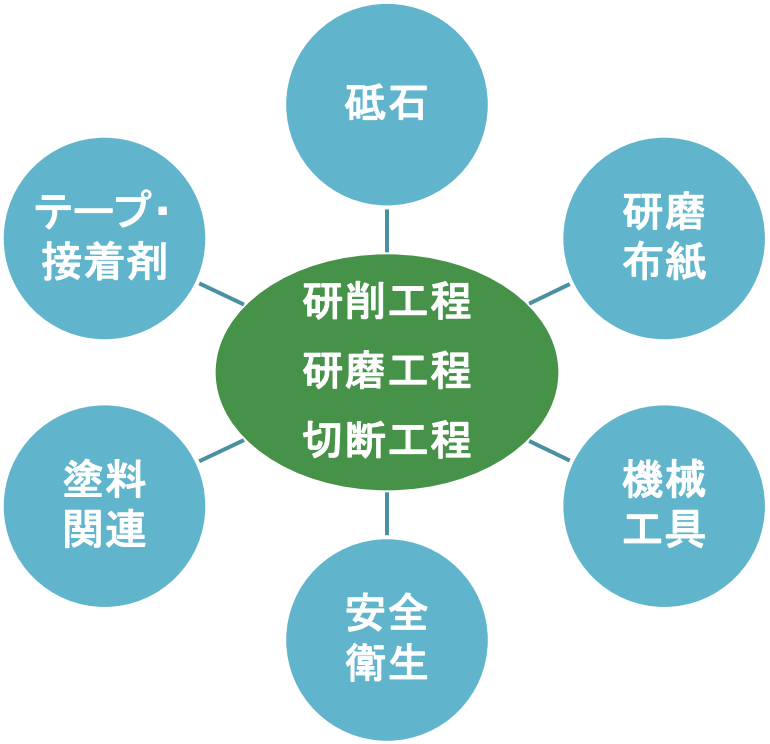
ガラスクロス（砥石用補強材）



炭素繊維

ガラスクロス（砥石用補強材）を中心とした、不織布、布、紙、炭素繊維などの樹脂加工における技術を背景にコンポジット事業の拡大に取り組んでいます。

【参考】主要取扱商品：機械工具・研磨布紙 他



研削研磨工程で使用される、電動工具、切断工具、各種エアー機器などの機械工具や研磨布紙など、非常に幅広い商品カテゴリーを取り扱っています。

当社は砥石専業メーカーのブランド力を活かし、使う人のニーズに合わせ総合的なサービスを展開。
研削・研磨・切断の全工程をフォローするトータルエンジニアリングサービスとして、
グループ力を強化し、技術面でのバックアップ体制を整え、多様な「切る、削る、磨く」という
ニーズへの顧客満足に努めます。

免責事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであります。

本資料における、将来予測に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。